

令和 6 年度
北秋田市行政評価委員会
評価結果報告書

令和 7 年 1 月
北秋田市行政評価委員会

目 次

1 行政評価委員会の概要	3
（1）設置目的	3
（2）委員会の役割	3
（3）委員会の構成	4
（4）評価の進め方	4
（5）評価対象事業	5
（6）委員会の開催経過	6
2 評価結果の総括	7
（1）目的妥当性	7
（2）有効性評価	7
（3）効率性評価	7
（4）公平性評価	7
3 事業別の評価結果	8
（1）不登校児童生徒対策事業	8
（2）あんしん電話（緊急通報システム）設置事業	9
（3）北秋田市文化スポーツ合宿等誘致促進事業	10
（4）北秋田市猟友会補助金	11
（5）きたあきた赤ちゃん応援事業	12
（6）北秋田市資格取得支援事業	13
4 市民による評価の課題及び改善に向けた提言	14
資料1 事務事業ワークシート	17
資料2 令和5年度北秋田市行政評価委員会からの意見や提言に対する回答	29

1 行政評価委員会の概要

(1) 設置目的

北秋田市行政評価委員会（以下「委員会」という。）は、市が行った内部評価の客観性と透明性を高めるとともに、市民目線による外部の評価結果を今後の行政運営に活かすことを目的として設置しております。

(2) 委員会の役割

委員会では市が行った事業について、各委員がそれぞれの立場や視点で議論しながら評価を行い、問題等がある場合は改善案についても提言します。

評価にあたっては、次の4つの視点から評価しますが、いわゆる「事業仕分け」のように、事業の廃止や予算縮減など財源の捻出を主な目的とした手法ではなく「受益者」「納税者（負担者）」「利害関係者」「住民」などまちづくりの担い手がいることに留意しながら、行政、市民、各団体などそれぞれどのような役割を担うべきかなど、建設的な意見や提言を取りまとめることを目標に取り組んでおります。

評価の視点	評価のポイント
目的妥当性	・ 目的は、総合計画の政策体系に結びついているか？ ・ 成果（対象と意図）と上位成果（結果）の絞り込み、拡充は必要か？ ・ 行政や市が関与すべき目的か？公共性はあるのか？
有効性	・ 成果の向上余地があるか？ ・ 同じ目的を持つ他の事務事業はないか？ ・ 統廃合や事業移管をすれば成果が向上するのではないか？
効率性	・ 成果を低下させずにコストを削減できるか？ ・ どこにコスト圧迫、増大する要因があるか？ ・ 業務改善すれば人員や時間を削減できるのではないか？
公平性	・ 一部の受益者に偏っていないか？ ・ 一部の受益者に機会が限定されていないか？



(3) 委員会の構成

委員会は、学識経験者、地域自治組織から推薦された方、公募市民からなる 10 名以内の委員で構成しています。

委員の任期は、令和 6 年 5 月 22 日から令和 8 年 3 月 31 日までとなっています。

	役職	氏名	部会
1	委員長	伊藤 武	第 1 部会
2	委 員	春日 俊克	第 2 部会
3	委 員	金森 勝三	第 1 部会
4	委 員	小林 さや	第 2 部会
5	委 員	佐京 奈緒美	第 1 部会
6	委 員	佐藤 頼秋	第 1 部会
7	委 員	杉渕 麻美	第 2 部会
8	副委員長	長谷川 拓郎	第 2 部会
9	委 員	檜森 正太	第 2 部会
10	委 員	若松 洋美	第 1 部会

(五十音順)

(4) 評価の進め方

各事業の評価の進め方は、委員会を 2 つの部会に分け、部会ごとに担当課からヒアリングを行ったのちに部会としての評価や意見をまとめます。部会終了後に全体会で結果発表と意見交換を行って評価結果が取りまとめられます。

【 部会 】

① 担当課ヒアリング及び質疑応答 (60 分)

- ・担当部長、課長等により、事務事業評価シートをもとに事業の概要や実績、内部評価結果などを説明する。
- ・不明な点、疑問点を委員から質問し、担当課が回答する。

② 評価結果の取りまとめ (30 分)

- ・目的妥当性や有効性など 4 つの評価視点からそれぞれの意見を出し合う。
- ・評価結果の他、改善案などについても、意見を取りまとめる。



【全体会】

③ 評価結果発表・意見交換 （30 分）

- ・部会毎に評価結果を発表する。
- ・疑問点の有無、その他の意見や改善案などがないか確認する。

④ 評価結果取りまとめ

（5）評価対象事業

評価対象とする事務事業については、平成 24 年度から令和 6 年度までに担当課等による内部評価を終えた 131 事務事業のうち、委員から選んでいただいた事業の中から以下の 6 つの事務事業を今年度の評価対象として選定しました。（以前に外部評価を実施した事務事業も対象）



事務事業名	分野（施策名）	所管課名
不登校児童生徒対策事業	学校教育の充実	学校教育課
あんしん電話（緊急通報システム）設置事業	高齢者福祉の充実	高齢福祉課
スポーツ文化合宿等誘致促進事業	スポーツの振興	文化スポーツ課
北秋田市猟友会補助金	農業の振興	農林課
きたあきた赤ちゃん応援事業	安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実	こども課
北秋田市資格取得支援事業	工業の振興	産業政策課

(6) 委員会の開催経過

	日時	委員会の概要
第1回	5月22日(水)	・委嘱状交付 ・事業説明
第2回	8月23日(金)	<事務・事業ヒアリング> 【第1部会】不登校児童生徒対策事業 【第2部会】あんしん電話(緊急通報システム)設置事業
第3回	10月25日(金)	<事務・事業ヒアリング> 【第1部会】スポーツ文化合宿等誘致促進事業 【第2部会】北秋田市猟友会補助金
第4回	11月22日(金)	<事務・事業ヒアリング> 【第1部会】きたあきた赤ちゃん応援事業 【第2部会】北秋田市資格取得支援事業
第5回	12月18日(水)	・評価結果取りまとめ ・評価結果報告書作成
報告	令和7年 1月10日(金)	・市長へ評価結果報告書の提出



2 評価結果の総括

【評価項目別の評価結果一覧】令和6年度評価対象 全6事業

評価の視点	担当課(内部評価)		行政評価委員会(外部評価)	
	適切	見直し余地あり	適切	見直し余地あり
目的妥当性	6事業	0事業	5事業	1事業
有効性	5事業	1事業	4事業	2事業
効率性	6事業	0事業	6事業	0事業
公平性	6事業	0事業	6事業	0事業

(1) 目的妥当性 (行政が関与すべきか？公共性はあるか？)

「あんしん電話（緊急通報システム）設置事業」にのみ、新しいサービスの検討や、機器のリニューアルも必要という意見が出たことより、「見直し余地がある」という評価に至った。

(2) 有効性評価 (成果向上の余地は？他の事業との連携は？)

「あんしん電話（緊急通報システム）設置事業」において、障害の度合い（聴覚障害等）によって受けるサービスの内容を考える必要があるという意見が出たことにより、「見直し余地がある」という評価に至った。

「スポーツ文化合宿等誘致促進事業」において、スポーツ大会開催事業補助金に関連して、更なる誘客や、スポーツ大会の開催を期待したい。他事業との連携で、宿泊施設の整備が必要という意見が出たことにより、「見直し余地がある」という評価に至った。

(3) 効率性評価 (コストの削減？業務改善による人員や時間の削減は？)

効率性評価に関しては、すべての事業で「適切」という評価になった。

(4) 公平性評価 (一部の受益者を対象にしていないか？ 偏っていないか？)

公平性評価に関しては、すべての事業で「適切」という評価になった。

3 事業別の評価結果

(1) 不登校児童生徒対策事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適 切	適 切
有 効 性	適 切	適 切
効 率 性	適 切	適 切
公 平 性	適 切	適 切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 事業の統廃合・連携

②全体所感・市への提案

- 高校進学を目標にすることで、適応指導教室への進級ができている。
- リフレッシュ学園とさわやか教室のそれぞれの特徴を生かして、生徒の状況に合わせた対応ができている。
- さわやか教室に登校できていない生徒にも何かしら（ステップアップ教室等）の対応をしている。
- なるべく個々のニーズに応じた対応に期待したい。
- 理想としては、鷹巣、合川、森吉、阿仁の地区毎のニーズに応じて、さわやか教室を開催してもらいたい。
- 不登校児童が外出するきっかけを作るいい事業である。
- 自宅、学校以外を知るいい機会を作る事業であることを評価したい。

(2) あんしん電話（緊急通報システム）設置事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適 切	見直し余地あり
有 効 性	適 切	見直し余地あり
効 率 性	適 切	適 切
公 平 性	適 切	適 切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 事業のやり方改善による成果向上

② 全体所感・市への提案

- インターネットを利用したものなど新しいサービスの検討、機器のリニューアルも必要ではないか。
- 民間事業との連携。
- 障がいの度合いによって受けるサービス内容を考える必要がある。（聴覚障害等）
- 事業費の削減余地については社協との連携で登録、休止を確実にする。（リース料について）
- 意見として、単身者の方へのフォローも必要ではないか。
- あんしん電話の落とし穴（あんしん電話があるから安心とってしまう）。より多くの方が使える、機能が充実したものへの進化。（ＴＶ画面で対話ができる等）

(3) 北秋田市文化スポーツ合宿等誘致促進事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	見直し余地あり	見直し余地あり
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 事業のやり方改善による成果向上

■ 事業統廃合・連携

② 全体所感・市への提案

- 補助金の増額はあってもよいのではないかと。
- この事業を推進したいのか、はっきり分からないことがあったので、幅広い団体を受け入れるための施設整備をお願いしたい。
- 中嶋聡球場や、相撲場や新体育館、スポーツセンター（田沢湖高原、由利本荘矢島のような）など宿泊できる多目的スポーツ施設を提案したい。
- 他市町村との差別化を図る意味でも、大胆な改革を期待している。
- 長いビジョンで、是非他事業と連携して実現させてほしい。

(4) 北秋田市猟友会補助金

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適 切	適 切
有 効 性	適 切	適 切
効 率 性	適 切	適 切
公 平 性	適 切	適 切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 現状で継続

② 全体所感・市への提案

- 運営費の使途として問題なし。
- 事業費であるとしながら、有害駆除に関することに支出されていないことに疑問を感じる。
- 射撃訓練によって技術が保管されている。
- 餌代や銃弾費用等物価高騰による費用負担が増えているため、費用についての検討も必要ではないか。
- 駆除するだけでなく、ジビエとして資源利用する方向性を求める。

(5) きたあきた赤ちゃん応援事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適 切	適 切
有 効 性	適 切	適 切
効 率 性	適 切	適 切
公 平 性	適 切	適 切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による延べ業務時間の縮減

② 全体所感・市への提案

- 相談支援と経済的支援が一体的にできている。
- 母子手帳発行時と生後一か月の面談で、家庭の状況が把握できている。
- 相談しやすい環境ができている。
- ハッピーアニバーサリー事業（北秋田市独自）との連携も既に行っているため、既に連携できている。
- 北秋田市公式LINEがとてもよい。
- 事業の継続をしてもらいたい。
- 地元医療機関でも、安心して出産・分娩できる体制を構築していただきたい。

(6) 北秋田市資格取得支援事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適 切	適 切
有 効 性	適 切	適 切
効 率 性	適 切	適 切
公 平 性	適 切	適 切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■現状で継続

② 全体所感・市への提案

- 対象者の年齢が 65 歳未満になっているが、現役で仕事をしている高齢者も増えているので年齢制限を上げるのはどうか。（元気な 60 代 70 代の労働人口が増えることで、人手不足、労働人口減少の解消につながるのではないかな。）
- 上限金額 10 万円の中で複数の資格を取得できるのが良いと思う。
- 市内企業に内定が決まった高校生なども対象にしてはどうか。
- 世代別の制度利用状況も知れたら良かった。

令和6年度行政評価委員評価後アンケート

(1) 事務事業評価資料（マネジメントシート）の記載内容について

- ・最後に出てくる行政側の目標を詳しく説明、標記してほしい。
- ・事業内容なども質問が出るので補足資料を出してほしい。
- ・問題なく把握することができた。
- ・項目ごとによくまとめられており、わかりやすかった。
- ・分かりやすい言葉で表現されていたが、中には評価が難しい事業があった。
- ・（あんしん電話について）通報する手段を一つだけにせず、通報者の障がいの種類によって利用しやすいものに改善すべきである。「あんしん電話の落とし穴」あんしん電話だけでは安心とは言えないので機能を充実したものへの進化が必要ではないか。
- ・全般的には責任感あふれる表現だと思う。
- ・（不登校児童生徒対策事業）児童や生徒の年齢や学年の記載があると更にわかりやすかった。
- ・概ね良いと思う。今回委員会で検討した以外にも多くの事柄について、社会情勢やニーズに則しているか確認しながら適切な判断が求められると感じた。
- ・マネジメントシートが分かりにくいため、見直し時期が来たら変えて欲しいと思う。

(2) 評価ヒアリング時における職員の対応について

- ・専門的な問題もあり、本音と建前が見え隠れしている。
- ・委託事業で実際に運営されている方の話を聞かせてほしい。
- ・分かりやすく、小さな質問に対しても丁寧に説明してもらえた。
- ・シートに記載していない補足的な所も説明していただき、理解できた。
- ・多くの資料を用意してヒアリングに臨み、委員の多様な質問に対応していたのが大変良かった。
- ・明快・簡潔であった。
- ・評価項目の選定について）「北秋田市猟友会補助金」で事前に送付されたマネジメントシートを読み込んだが、猟友会への一括した600千円の補助で、わざわざ行政評価委員が貴重な時間を割いてまで議論すべき内容ではない。それよりも実際のクマの被害防止のために活動している「北秋田市鳥獣被害防止総合対策事業交付金」について評価対象とした方がよかった。事前に送付された総合計画が評価の内容と全く違っていたのでよく調査してから送ってほしい。
- ・説明は一つ一つ丁寧に対応していたと思う。ただ一つ、一番最後に提案をした際になんの返答もなく、不快な表情をされたのが残念だった。
- ・職員の方の説明はわかりやすかったのですが、事前に頂いた資料だけでは深く内容を理解し、委員会で検討するには資料が不足だったように思った。

(3) 行政評価委員会における評価の進め方について

- ・新委員も加わり、スムーズに進行できたが、構成メンバーも時々変えてみてはどうか。メンバーも若返った感じがする。
- ・対象事業以外との関連性等にも議論が広がり内容をさらに深く理解することができた。
- ・事業によっては話し合いの時間が足りないと感じることもあった。予定している時間より委員会が早く終わることもあったので、状況に応じて時間をとるなどして、十分な意見交換を行えばいいと思う。
- ・モニター、プロジェクター等が導入されてから進行がとてもスムーズになった。

- ・発表の際、マイクがあった方がいいかな？と思うこともあった。
- ・今年度の第2部会の皆さんは積極的で、とりまとめも発表も大変良かった。
- ・評価対象事業希望調査に書いた事務事業について、1つも部会で審議に参加することができなかったのが残念でしたが、様々な年代（大学生が良かった）や職業の方がいて勉強になった。
- ・事前資料の情報量が足りなく議論すべき内容が浅く、時間的には早く終わる感じがした。
- ・進行役について以前経験された方のやり方を教えていただき、初めて参加した人でも馴染めた。
- ・事業によっては複雑な部分があり、理解するのに時間を要し、十分な評価ができたのか疑問が残る。

（４）その他、行政評価委員会運営に関して改善すべき点や気付いた点について

- ・評価議案が少なくなってきた。今後は数年前の議案を提案したいと思っている。
- ・評価対象事業選択時に、興味・関心がある又はよくわからない事業を選び、評価の結果「適切」となった場合（評価することに意味があるので適切でよいと思うが）自分自身の選択の基準が良かったのかと多少考えてしまう。
- ・様々な分野の方々からの意見を聞くことができ、一市民として評価をしている当委員会は必要不可欠なものだと思った。
- ・自分が評価したいと挙げていた事業が自分の部会の担当ではなく、評価できなかったということを知ったので、それぞれ関心のある事業について評価できればよいと思った。（全員は厳しいと思うが）
- ・北秋田市に住んでいる・働いている若い人もいると思うのでそのような方が委員に必要ではないかと思った。
- ・評価対象事業について、有効な話し合いになるよう精査する必要があると思った。
- ・様々な意見があり勉強になった。皆北秋田市に対して情熱を持っていることに刺激を受けた。
- ・素人が適切な評価ができているのかいつも不安ではあるが、一般市民の率直な意見として、業務に活用して頂ければありがたい。

（５）その他、今回の評価対象事業にかかわらず、今後のまちづくりにおける改善策や提言などご自由に記入ください。

- ・教員住宅や建物に対して長期になるとお金も多くかかるので、早い対応が望ましい。
- ・評価対象事業を実際に市担当者から説明を受け、自分自身が考えていた事業内容、評価の方向性とは全く違うものだと分かり大変驚き、勉強になった。一市民としては、無数にある事業を知る機会が少ないが、今回の評価委員会を通して一部でも知ることができ、よかったと思う。多くの人に評価委員会に関心を持って参加してもらえればいいが、実際参加するには時間の融通が利く人でなければならないと思った。
- ・結婚しない（出来ない・したくない）若者が多数みられています。結婚だけが人生ではありませんが、ますます少子化が進んでゆく現状が残念でなりません。
- ・若い世代だけでなく、最も人口が多い60代～70代の人々が元気に活躍できるような事業や市政を考えてほしい。高齢者が元気で現役で頑張ることができる場所づくりも大切なことだと思う。
- ・（森吉山荘について）森吉山の国立・国立公園の話題が頻繁に出るようになり、インバウンドの回復傾向も見えて来てる中で民間宿泊業への配慮から休止されているのもいいかもしれませんが、宿舎には宿舎、温泉は杣温泉とのコラボレーションで双方に支えあったらいいかと思いますが。杣温泉と山荘の送迎とか貸自転車とか。
- ・大館能代空港付近にホテルや宿泊施設などで泊まれる場所を作ってほしい。他県や遠方から友達

や知り合いがきても泊まれる所が少ない為来れないし、呼べないのが現実。大好きな北秋田市なのに勿体ないなあ・・・と感じる。

- ・大太鼓の館のリニューアルに何十億もの税金をかける必要が本当にあるのでしょうか？一部の人達で決めるのではなく、それこそ行政評価委員会（市民目線で外部評価）などを設置して多くの方の意見を聞くべきだと思った。

- ・ふるさと納税で得た収入を繰越せずしっかりと目的に則して利用していくことが必要ではないか。サイト上で目的別の項目にチェックを入れてもらった事業に必要とされている予算措置をしていくべきだと思う。また、使途内容についても、04 自然を愛し環境をととのえる美しい街づくり事業で「大館能代空港運賃助成補助金 市民の空港利用や、市内に事業所を有し、企業ファンクラブ会員である企業のビジネス利用に対し運賃助成を行うことで、令和4年度の利用者を大幅に上回る結果となり、多くの市民利用、ビジネス利用者の確保につなげることができました。」と市のHPで読みましたが題目との整合性が取れていないと思う。また 01 健康でしごとにはげむ活力あるまちづくり事業についても、健康でいれるよう啓蒙したり、運動施設の器具の充実や指導員の導入することにより健康寿命を伸ばし医療費を抑え労働力不足の加速を抑えることができるのではないか。また、伐採された山林に植樹していく木について杉一辺倒ではなく利用価値の高い木材の植林や、観光で人を呼べる植樹、飢餓の際に対応できる果樹など森林環境贈与税と合わせて検討されては？

- ・一般市民として評価させて頂いているが、この委員会を通して市の事業の成長に成果や貢献ができていいのか分からない。評価の先に見えるものがあればやりがいも感じると思う。

- ・市民の意見に真摯に向き合って対応して頂けていることに感謝している。

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 不登校児童生徒対策事業

I. 目的妥当性評価

対象
(誰が、何が)

不登校児童・生徒

意図
(どうなることで)

・学校に登校できるようになる。
・学習の遅れを個別指導で補充し、集団生活に適応しコミュニケーションをとれるようになる。
・基本的生活習慣の改善を図る。

結果...

上位
目的
(どうなる)

・高校受験に臨み、高校進学を目指す。
・社会に出て、自分の将来の夢に向かって自立して生活できるようにする。

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

☐ 見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

☒ 適切である

(気になった点・出された意見等)

高校進学を目標にすることで適応指導教室への進級が
できている。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

☐ 見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

☒ 妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

収益が見込める事業ではないため、公的機関が実施す
べき。

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 不登校児童生徒対策事業

II. 有効性評価

成果
指標と
実績

学校復帰
R5実績: 6名
R4実績: 2名
R3実績: 3名

活動
指標と
実績

さわやか教室在籍者数
R5実績: 8名
R4実績: 3名
R3実績: 4名

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

☐ 見直し余地がある(成果実績は十分でない)☒ 妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

・自宅から外出することがさわやか教室を利用する意義
にもなる。

・ニーズに応じた対応をしていることを評価したい。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

☐ 他に手段がある☐ 統廃合ができる☐ 連携ができる☒ 既に統廃合・連携している☐ 統廃合・連携ができない☐ 他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

リフレッシュ学園とさわやか教室のそれぞれの特徴を生
かして、生徒の状況に合わせた対応ができている。

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第1部会

対象事業名:不登校児童生徒対策事業

活動
指標と
実績

さわやか教室在籍者数
R5実績:8名
R4実績:3名
R3実績:4名

コスト
(かかる費用)

事業費
R5実績:1,326千円
R4実績:1,118千円
R3実績:1,240千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

さわやか教室に登校できない生徒にも何かしら(ステップアップ教室等)の対応をしている。

事務事業評価 ワークシート4

班名:第1部会

対象事業名:不登校児童生徒対策事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1〜3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
II 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
III 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
IV 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

☐ 目的再設定	☐ 事業のやり方改善による成果向上
☐ 廃止・休止	☐ 費用負担の適正化
☐ 行政関与の見直し	☐ 受益機会の適正化
☐ 事業のやり方改善による事業費削減	
☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減	
☒ 事業統廃合・連携	☐ 現状で継続
(関連事業: あきたリフレッシュ学園)	

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・なるべく個人のニーズに応じた対応に期待したい。
- ・理想としては、地区毎のニーズに応じてさわやか教室を開設してもらいたい。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- ・不登校児童が外出するきっかけを作るいい事業であると思った。
- ・自宅、学校以外を知るいい機会を作る事業であること評価したい。

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第2部会

対象事業名:あんしん電話(緊急通報システム)設置事業

I. 目的妥当性評価

対象 (誰が、何か)	おおむね65歳以上の高齢者又は65歳以上の高齢者と18歳未満の者が構成されている世帯、障がいの程度が1級ないし2級の身体障害者手帳の交付を受けている者の世帯
意図 (どうなることで)	緊急の事態には、ボタンを押すことですぐに消防本部に緊急依頼ができる。在宅生活での不安感が解消される。
結果...	
上位目的 (どうなる)	高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるための施策の一つとして、在宅で安心して暮らせる環境づくりを継続する。

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照らし合わせると適切か?

☒ 見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

☐ 適切である
(気になった点・出された意見等)

新しいサービスを検討することも必要では?(インターネット等)機器のリニューアルも必要では?

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か?民間や受益者ができる事業か?

☐ 見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

☒ 妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

民間の事業者との連携

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第2部会

対象事業名:あんしん電話(緊急通報システム)設置事業

II. 有効性評価

成果指標と実績	ア) あんしん電話の運用状況(救急通報) R5実績: 11件 R4実績: 14件 R3実績: 13件 イ) あんしん電話の運用状況(その他・救急通報以外)誤押、電源異常 R5実績: 34件 R4実績: 67件 R3実績: 63件
活動指標と実績	ア) あんしん電話設置数(全体) R5実績: 156台 R4実績: 174台 R3実績: 270台 イ) 使用料及び賃借料 R5実績: 1,047千円 R4実績: 1,328千円 R3実績: 1,535千円

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

☒ 見直し余地がある(成果実績は十分でない)

☐ 妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

障がいの度合によって受けるサービスの内容を考える必要がある。(聴覚障害)

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

☐ 他に手段がある
☐ 統廃合ができる ☒ 連携ができる
☐ 既に統廃合・連携している ☐ 統廃合・連携ができない
☐ 他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

民間と連携ができる。

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第2部会

対象事業名:あんしん電話(緊急通報システム)設置事業

活動
指標と
実績

ア) あんしん電話設置数(全体)

R5実績:156台

R4実績:174台

R3実績:270台

イ) 使用料及び賃借料

R5実績:1,047千円

R4実績:1,328千円

R3実績:1,535千円

コスト
(かかる費用)

事業費

R5実績:1,759千円

R4実績:2,239千円

R3実績:2,444千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

☐ 削減余地がある

☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

社協との連携で登録、休止を確実にする(リース料について)

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

☐ 削減余地がある

☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

☐ 見直し余地がある

☒ 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

意見として、単身者の方へのフォローが必要なのでは?

事務事業評価 ワークシート4

班名:第2部会

対象事業名:あんしん電話(緊急通報システム)設置事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり

II 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり

III 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

IV 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上

☐ 廃止・休止 ☒ 費用負担の適正化

☐ 行政関与の見直し ☐ 受益機会の適正化

☐ 事業のやり方改善による事業費削減

☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減

☐ 事業統廃合・連携 ☐ 現状で継続

(関連事業:

)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

あんしん電話の落とし穴。機能が充実したものへの進化。(TV画面で対話できる等)

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

ワークシートをペーパーレスにしては?

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名: 第1 部会

対象事業名: 北秋田市スポーツ文化合宿等誘致推進事業

対象 (誰が、何が)	市外スポーツ団体	I. 目的妥当性評価 ①対象・意図・上位目的の妥当性 この事務事業の目的（対象と意図）について、上位目的（＝総合計画での方向性）や市民感覚と照し合わせると適切か？ ☐ 見直し余地がある （目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである） ☒ 適切である (気になった点・出された意見等)
	北秋田市への誘客	
意図 (どうなることで)		②公共関与(行政関与)の妥当性 この事務事業の目的（対象と意図）は行政（市）が税金を使って果たす目的か？ 民間や受益者ができる事業か？ ☐ 見直し余地がある （行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである） ☒ 妥当である （行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である） (気になった点・出された意見等)
上位目的 (どうなる)	合宿の合同練習等により、市内及び県内の競技団体と交流が図られ、交流人口の増加、協議技術の向上が期待できる。	

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名: 第1 部会

対象事業名: 北秋田市スポーツ文化合宿等誘致推進事業

成果指標と実績	市内宿泊者数 R5実績：377名 R4実績：0名 R3実績：0名	II. 有効性評価 ③成果の向上余地 あるべき水準や目標に達しているか？現在の活動内容で成果の向上が期待できるか？ ☒ 見直し余地がある(成果実績は十分でない) ☐ 妥当である(成果実績は十分な水準である) (気になった点・出された意見等) ○ スポーツ大会開催事業補助金に関連して、更なる誘客やスポーツ大会の開催を期待したい。 ○ 他事業との連携で、宿泊施設の整備をお願いしたい。
活動指標と実績	合宿件数 R5実績：4名 R4実績：0名 R3実績：0名 参加人数 R5実績：377名 R4実績：0名 R3実績：0名	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？ ☐ 他に手段がある ☐ 統廃合ができる ☒ 連携ができる ☐ 既に統廃合・連携している ☐ 統廃合・連携ができない ☐ 他に手段がない (気になった点・出された意見等)

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第1部会

対象事業名:北秋田市スポーツ文化合宿等誘致推進事業

活動
指標と
実績

合宿件数
R5実績:4名
R4実績:0名
R3実績:0名
参加人数
R5実績:377名
R4実績:0名
R3実績:0名

コスト
(かかる費用)

事業費
R5実績:594千円
R4実績:0円
R3実績:0円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

ただ、補助金の増額はあってもよいという意見もある。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

事務事業評価 ワークシート4

班名:第1部会

対象事業名:北秋田市スポーツ文化合宿等誘致推進事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
II 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
III 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
IV 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

☐ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上
☐ 廃止・休止 ☐ 費用負担の適正化
☐ 行政関与の見直し ☐ 受益機会の適正化
☐ 事業のやり方改善による事業費削減
☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
☒ 事業統廃合・連携 ☐ 現状で継続

(関連事業:

)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

- この事業を推進したいのか、はっきり分らないところがあったので、団体を受け入れるための施設整備をお願いしたい。
- 中嶋聡球場や、相撲場・ゴルフ場の建設、スポーツセンター(矢島)などの、多目的なスポーツ施設を提案したい。
- 他市町村との差別化を図る意味でも、大胆な改革を期待している。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

長いビジョンで、是非他事業と連携して実現させて欲しい。

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市猟友会補助金

対象 (誰が、何が)	北秋田市猟友会	I. 目的妥当性評価 ①対象・意図・上位目的の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か? ☐ 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである) ☒ 適切である (気になった点・出された意見等) 猟友会の運営費の使途して問題ない。
	意図 (どうなることで) 猟友会員を鳥獣被害対策実施隊員として市長が任命	
	上位目的 (どうなる) 農作物及び人身被害の低減	

結果...

②公共関与(行政関与)の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か? ☐ 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである) ☒ 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である) (気になった点・出された意見等) 事業費であるとしながら、有害駆除に関することに支出していることに多少の疑問を感じる。
--

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市猟友会補助金

成果指標と実績	鳥獣被害対策実施隊員 R5実績: 120名 R4実績: 125名 R3実績: 120名	II. 有効性評価 ③成果の向上余地 あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか? ☐ 見直し余地がある(成果実績は十分でない) ☒ 妥当である(成果実績は十分な水準である) (気になった点・出された意見等) 射撃訓練によって技術が保管されている。
	活動指標と実績 支部活動費(旧4町)生息調査調整捕獲 R5実績: 779千円 R4実績: 1,059千円 R3実績: 787千円 狩猟登録、保険料 R5実績: 2,137千円 R4実績: 2,172千円 R3実績: 1,947千円 射撃大会 R5実績: 95千円 R4実績: 85千円 R3実績: 99千円	

④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか? ☐ 他に手段がある ☒ 他に手段がない (気になった点・出された意見等) 他に手段がない。
--

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市猟友会補助金

活動 指標と 実績

支部活動費(旧4町)
生息調査調整捕獲
R5実績: 779千円
R4実績: 1,059千円
R3実績: 787千円
狩猟登録、保険料
R5実績: 2,137千円
R4実績: 2,172千円
R3実績: 1,947千円
射撃大会
R5実績: 95千円
R4実績: 85千円
R3実績: 99千円

コスト (かかる費用)

事業費
R5実績: 600千円
R4実績: 600千円
R3実績: 600千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

餌代や銃弾費用等物価高騰による費用負担が増えて
いるため費用についての検討も必要ではないか。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

特になし

事務事業評価 ワークシート4

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市猟友会補助金

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1〜3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
II 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
III 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
IV 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

☐ 目的再設定	☐ 事業のやり方改善による成果向上
☐ 廃止・休止	☐ 費用負担の適正化
☐ 行政関与の見直し	☐ 受益機会の適正化
☐ 事業のやり方改善による事業費削減	
☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減	
☐ 事業統廃合・連携	☒ 現状で継続
(関連事業:)	

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

駆除するだけでなく、ジビエとして資源利用する方向性を求める。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

鳥獣被害対策実施隊の活動状況をもっとよく知りたかった。

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第1部会

対象事業名:きたあきた赤ちゃん応援事業

対象 (誰が、何が)	妊娠の届出をした妊婦、出生した児童の養育者	I. 目的妥当性評価 ①対象・意図・上位目的の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か? ☐ 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである) ☒ 適切である (気になった点・出された意見等)
意図 (どうなることで)	妊娠期から保健師に相談しやすい関係性の構築と子育て支援の情報を提供することで、妊婦や子育て家庭が孤立することなく子育てを行うことができる。	相談支援と経済的支援が一体的にできている。
上位目的 (どうなる)	安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	②公共関与(行政関与)の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か? ☐ 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである) ☒ 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である) (気になった点・出された意見等) 母子手帳発行時と生後1か月の面談で、 家庭の状況が把握できている。

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第1部会

対象事業名:きたあきた赤ちゃん応援事業

成果指標と実績	保健師による面談の実施率 R5実績:100% R4実績:100% 産後うつの可能性が高い産婦の割合 R5実績:4.0% R4実績:0.0%	II. 有効性評価 ③成果の向上余地 あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか? ☐ 見直し余地がある(成果実績は十分でない) ☒ 妥当である(成果実績は十分な水準である) (気になった点・出された意見等) 相談しやすい環境ができている。
活動指標と実績	マタニティギフト、ベビギフト支給数、支給額(5万円/人) R5実績:200名10,000千円 R4実績:185名 8,250千円 あきた出産おめでとう給付金支給数、支給額(2万円/人) ※R5年度より実施事業 R5実績:149名2,980千円 相談支援でのアンケート回収数 R5実績:197件 R4実績:94件	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか? ☐ 他に手段がある ☒ 統廃合ができる ☐ 連携ができる ☒ 既に統廃合・連携している ☐ 統廃合・連携ができない ☐ 他に手段がない (気になった点・出された意見等) ハッピーアニバーサリー事業(北秋田市独自)との 連携も既に行っているため、既に連携できている。

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第1部会

対象事業名:きたあきた赤ちゃん応援事業

活動
指標と
実績

マタニティギフト、ベビギフト支給数、支給額(5万円/人)
R5実績:160名8,000千円
R4実績:165名8,250千円
あきた出産おめでとう給付金
支給数、支給額(2万円/人)
※R5年度より実施事業
R5実績:149名2,980千円
相談支援でのアンケート回収数
R5実績:197件
R4実績:94件

コスト
(かかる費用)

事業費
R5実績:15,402千円
R4実績:8,445千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか?(経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

R7からは国の予算が10/10になり、市からは
事務費のみ

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担は公平・公正・適切か?

☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

事務事業評価 ワークシート4

班名:第1部会

対象事業名:きたあきた赤ちゃん応援事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
II 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
III 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
IV 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

☐ 目的再設定 ☐ 事業のやり方改善による成果向上
☐ 廃止・休止 ☐ 費用負担の適正化
☐ 行政関与の見直し ☐ 受益機会の適正化
☐ 事業のやり方改善による事業費削減
☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
☐ 事業統廃合・連携 ☐ 現状で継続
(関連事業:)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

北秋田市公式LINEがとても良い。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

継続してもらいたい。

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市資格取得支援事業

対象 (誰が、何が)	・求職者 ・事業所
	意図 (どうなることで)
	免許や技術を有していない求職者及び従業員のスキルアップを目指す事業所の経費の負担軽減が図られる。
結果...	
上位目的 (どうなる)	北秋田市への定住促進及び安定した就労につながる。

I. 目的妥当性評価

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

☐ 見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

☒ 適切である
(気になった点・出された意見等)

対象者の年齢が現在65歳未満になっているが、現役で仕事をしている高齢者も増えているので年齢制限を上げるのはどうか?

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

☐ 見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的であるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

☒ 妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

特になし

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市資格取得支援事業

成果指標と実績	求職者補助額 R5実績: 473千円 R4実績: 625千円 R3実績: 338千円 事業所補助額 R5実績: 2,009千円 R4実績: 1,847千円 R3実績: 1,534千円
	活動指標と実績
取得資格数 R5実績: 60件 R4実績: 52件 R3実績: 48件	II. 有効性評価
③成果の向上余地	
あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?	
☐ 見直し余地がある(成果実績は十分でない) ☒ 妥当である(成果実績は十分な水準である) (気になった点・出された意見等) 上限金額10万円の中で複数の資格を取得できるのが良いと思う。	
④類似事業との統廃合・連携の可能性	
目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?	
☐ 他に手段がある ☒ 統廃合ができる ☐ 既に統廃合・連携している ☐ 連携ができる ☐ 統廃合・連携ができない ☒ 他に手段がない (気になった点・出された意見等) 特になし	

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市資格取得支援事業

活動 指標と 実績

求職者補助額
R5実績:473千円
R4実績:625千円
R3実績:338千円
事業所補助額
R5実績:2,009千円
R4実績:1,847千円
R3実績:1,534千円

コスト (かかる費用)

事業費
R5実績:2,482千円
R4実績:2,472千円
R3実績:1,872千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

☐ 削減余地がある ☒ 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

☐ 見直し余地がある ☒ 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

特になし

事務事業評価 ワークシート4

班名:第2部会
対象事業名:北秋田市資格取得支援事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
II 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
III 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
IV 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

☐ 目的再設定	☐ 事業のやり方改善による成果向上
☐ 廃止・休止	☐ 費用負担の適正化
☐ 行政関与の見直し	☐ 受益機会の適正化
☐ 事業のやり方改善による事業費削減	
☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減	
☐ 事業統廃合・連携	☒ 現状で継続
(関連事業:)	

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

- ・市内企業に内定が決まった高校生なども対象にしてはどうか?
- ・世代別の制度の利用状況も知れたら良かった。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- ・年齢制限を上げることで団塊の世代など高齢者の労働意欲の向上や、Uターンに繋げる方法もあるのではないかな。

【様式】

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価 年度	令和 5 年度	事務事業名	自主防災組織防災活動支援事業補助事業	
	評価 結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
行政評価委員会		適切	見直し余地あり	適切	適切
	意見・ 提言等 の内容	1. 今後は自治会単位のみではなく、広域的に組織する必要がある。 2. 機材購入補助金の交付回数条件の緩和が必要である。 3. 高齢化、人材不足のため組織作りが難しい地域もあるため、地域の実情に合わせた組織作りによる組織率の向上が必要である。 4. 行政からの積極的な指導が必要である。			
担当課	意見・ 提言等 に対する 担当課の 回答	1. 組織化は自治会単位と制限しているものではないため、地域の実情に応じて広域的な組織化も可能としております。 2. 補助金交付要綱の改正を行い、令和 6 年度より複数回の交付を可とします。 3. 上記 1 の回答とおりです。 4. 市広報や出前講座、各種研修会等での周知のほか、自治会等での防災訓練における周知も引き続き取り組んでまいります。			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価年度	令和5年度	事務事業名	幸せファミリーサポート事業	
	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提言等の内容	1. 年齢制限を設けていないことを評価したい。 2. 少子化対策として大変有効である。 3. 対象者が増加傾向にあるため事業費削減は難しい。 4. 今後多様な形（同性婚など）にも対応していく議論も必要ではないか。 5. 性別や結婚などの様々な価値観が変化してきているため、事業名称そのものが時代に合わなくなっているのではないかという印象を受けた。 6. 子育てに関する施策は国・県・市が協力して進めていただきたい。			
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答	少子化対策の重要な柱の一つとして、国県及び世論の動向も注視しつつ、今後も事業を推進して参ります。			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価 年度	令和 5 年度	事務事業名	交通安全啓発団体補助事業	
	評価 結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・ 提言等 の内容	1. 交通安全協会の内容が理解できた。 2. 市民に交通安全意識の啓発普及を図り、交通安全協会会員を増やす施策の検討が必要である。 3. 交通安全教室等への参加増を期待する。 4. 事業について見直しの余地がなく、現状の維持が適切である。			
担当課	意見・ 提言等 に対する 担当 課の回 答	北秋田地区交通安全協会は、任意団体であり入会については、任意となっており、ことから市として協会員を増やすための直接的な施策は実施できないものとなっております。しかし、広報・啓発を充実させることなどを今後協会に提言し、入会に対する忌避感を軽減し、協会員を増やすことにより交通安全施策の充実を図ってまいります。			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価 年度	令和 5 年度	事務事業名	花火大会補助金	
	評価 結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	適切	どちらともいえない
行政評価委員会	意見・ 提言等 の内容	1. 地域のつながりのためには大切である。 2. 意識調査は地域の特性が出ているようだ。 3. 各地域の実行委員会の活動がある間は事業が継続されるだろうが、実行委員会 が活動しなくなった後は不明である。 4. 各実行委員会の収支決算報告書があれば、より事業を詳細に評価できる。 5. 意識調査を上位目的に繋げるため、観光・レクリエーションの振興に努めてもら いたい。 6. 地域行事は後世に継承すべき大切なものなので、今後も市からバックアップを お願いしたい。			
担当課	意見・ 提言等 に對す る担当 課の回 答	「市民と来訪者がふれあう賑わいの機会創出」を目指し、実行委員会等の活動を通じた地域毎の取組みを引き続き支援してまいります。			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価年度	令和5年度	事務事業名	子育てサポートハウス運営事業	
	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
行政評価委員会		適切	適切	適切	見直し余地あり
	意見・提言等の内容	1. 核家族化や共働きが増加していることを認識した。 2. 市外からの利用者からも、こういった施設があることがありがたいとの意見がある。 3. 鷹巣地区のみ施設（わんぱく）があり不公平感があるが、阿仁地区などは利用者が少ないといった側面がある。 4. 保育所など既存施設を利用し、市内全域にて類似の子育て支援をすべきである。 5. 子育て世代としては大変ありがたい施設なので、是非継続してもらいたい。			
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答	子どもを産み育てる環境の変化に伴い、子育てサポートハウス「わんぱく」にて行っている一時預かり事業や子育て相談、つどいの広場などは年々需要が高まっており、利用者から大変喜ばれていることから今後も事業を継続してまいります。 3. 4については、「わんぱく」のように年中無休ではありませんが、各地域の保育園等で子育て支援事業や一時保育など同様の事業を実施しているところでもあります。また、令和5年度において子育て世帯に対するニーズ調査を実施しております。調査結果も参考にしてこどもを中心とした、よりよい子育て環境の構築を目指してまいります。			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価年度	令和5年度	事務事業名	移住体験事業	
	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提言等の内容	1. 移住体験メニューが充実しており、対象者の要望に応えることが出来ている。 2. 人口減少対策であり、行政が積極的に関わる必要がある。 3. 移住希望体験者に寄り添ったオーダーメイド型の移住体験ツアーや、業務委託先「スムスム」の活動によるイベントの実施により、移住者の増加が期待できる。 4. 市商工労働係以外にも必要に応じて、その他の担当課や係とも連携を図りながら進めてほしい。 5. 住民の協力が必要不可欠である。 6. 本市に移住を希望している移住体験者を分け隔てなく支援している。 7. 行政が地域住民の協力を得られるように働きかけることが望まれる。 8. 観光部局との連携も視野において進めてほしい。 9. 移住者の中で、Uターンが多い印象を受けた。			
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答	移住体験事業については、体験メニューの他に、移住希望者の不安解消や希望に添えるよう積極的に相談に乗り、オーダーメイドプランを組んでおります。 移住希望者から相談される多くは、住居、就業、子育ての悩みであることから、関係部署と横断的に連携を図り、移住体験に来られた際、希望の空き家物件内覧や事業所体験、保育園・小中学校の見学なども実施しながら満足度の高い事業を目指しております。 業務委託をしている「スムスム」は、マタギ体験をとおした北秋田市の魅力発信のほか、移住者が多く在籍していることから、移住希望者と地域住民との交流の場として活用しております。 今後も移住希望者に寄り添った移住体験を続けてまいります。			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価 年度	令和 5 年度	事務事業名	家族介護慰労事業	
	評価 結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
行政評価委員会		適切	適切	適切	適切
	意見・ 提言等 の内容	1. ケアマネージャーを通してしているので、対象者は漏れなく支給を受けている。 2. 施設の改善なども今後指導すべきである。			
担当課	意見・ 提言等 に対する担当 課の回 答	今後もケアマネージャー等を通して様々な場面で制度の周知を図り、家族介護慰 労事業を実施することで在宅福祉の増進を図ってまいります。 施設の改善につきましては、指導監査等をつうじて、必要に応じ適宜指導を行 ってまいります。			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

	評価年度	令和5年度	事務事業名	内陸線運営補助金	
	評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
		適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提言等の内容	1. 目標である年間赤字2億円を達成している。 2. 県・仙北市・関係団体と連携して支援している。 3. コロナ以前の状況に戻るには時間がかかるため、補助金を削減するのは困難。 4. 乗る・乗らないにかかわらず、鉄道は残してもらいたい。 5. 今後も乗車率の低下が見込まれるため、沿線に勤務する住民や、公務員の乗車を促すような方策を考えてほしい。 6. 愛護会のような市民団体への補助の見直しを求める。 7. 今後さらに定期乗車率の低下が見込まれるため、インバウンドの乗客や関連販売の促進を盛り上げていてもらいたい。 8. 今後赤字が2億円を超えることが予想されるため、その際の対策を考えていく必要がある。 9. 阿仁合～鷹巣間の乗車率を上げてもらいたい。			
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答	内陸線の経常損失2億円以内という目標は、令和4年度まで8年連続で達成しております。 内陸線の定期外乗車人員については、新型コロナウイルスの影響を最も受けた2020年度に78,392人（前年比50.3%）にまで落ち込みましたが、2023年度（1月時点）で114,978人にまで回復しました。それでもなお2019年度同月比では83.2%と、V字回復の途中段階といえる状況です。 今後も内陸線の存続に向けて、コロナ禍以前の乗車率までの回復をまずは目指し、引き続き秋田県、仙北市、会社と連携し、中長期的な展望を視野に、赤字額が増大しないよう4者で密接に連携してまいります。 沿線の利用については、市役所職員や学校などの利用について、乗車促進を呼びかけるとともに、自治会や各種団体の利用を高めるために、貸切列車などの助成を行い、利用促進に努めてまいります。 愛護会等の補助金については、清掃、除雪や駅環境美化の経費として市内の無人駅のある自治会等へ助成を行っていますが、団体からの要望や活動内容を吟味し補助額の見直しを検討してまいります。 沿線等の乗車機会が少ない方についても、乗る乗らないを問わず、鉄道存続に向けて協力いただける場としてボランティア活動への参加を呼びかけてまいります。（田んぼアート田植え、草刈りボランティア、沿線イベントなど） 最近利用が大きく伸びているインバウンド需要に対しては、乗車の際に合わせて関連商品が購入されるよう、会社の取り組みについて支援してまいります。 定期外乗車が少ない阿仁合～鷹巣間については、伊勢堂岱遺跡等の沿線の魅力を生かしたPRを行い、今後も乗車促進に努めてまいります。			